

大学院薬学研究科 2年制修士課程（薬科学専攻） 研究指導教員一覧表

指導教員 (所属分野)	主な研究内容
野中 孝昌 教授 (構造生物薬学分野)	口腔細菌由来硫化水素産生酵素、あるいは蛋白質またはペプチドをジペプチド単位で切断するジペプチジルアミノペプチダーゼファミリーに属する新規セリンプロテアーゼのX線結晶構造解析を行い、触媒機構を原子レベルで明らかにする課題の論文指導を行う。
河野 富一 教授 (創薬有機化学分野)	当分野で推進している医薬品製造に関連した研究を通じて、医薬品製造に関わる高度で専門的な有機合成の戦略を実践的に学び、合成技術を身につけ、得られた研究結果を研究論文としてまとめる。具体的な研究題目に関しては、配属された学生と相談して決定する。
杉山 晶規 教授 (衛生化学分野)	がん細胞の特性である足場非依的増殖能、細胞接着・運動・浸潤能、血管新生誘導能などを裏付ける因子についての研究や、影響を与える要因についての研究など、がんの悪性化機構に関する研究を行う。
中西 真弓 教授 (機能生化学分野)	酵素一分子の動きを観察する手法を用いて、ATP合成酵素や液胞型プロトンポンプATPaseの作動機構を、特に熱力学的な視点から解明する。この研究を通して、酵素による化学反応の触媒と構造変化の関係を、サブ分子レベルで理解する。
奈良場 博昭 教授 (薬学教育学分野)	プロスタグランジン産生酵素群（ホスホリパーゼA2、シクロオキシゲナーゼ、PGEシターゼ）などが、細胞外分泌小胞に存在していることが明らかになりつつある。それらの検出手法や単離方法などに関して、各自が個別のテーマを設定し、研究計画の策定を行い、実施準備及び実験を遂行する。実験結果の解析やまとめ及びプレゼンテーションの練習や報告書の作成をとおして一連の研究過程を学習する。
西谷 直之 教授 (情報薬科学分野)	悪性新生物に対する分子標的薬を志向した創薬研究を行う。化合物評価系の構築と微生物由来物質などの化合物スクリーニング、作用メカニズムの解明に関連した実験を行う。得られた化合物を用いた細胞生物学的解析から、新たな創薬標的の探索も視野に入れる。これら最先端の創薬研究を体験し、創薬に関連する基礎知識、発表技能、コミュニケーション技術、態度を学ぶ。
大橋 綾子 教授 (生体防御学分野)	老化、生体防御、環境ストレス応答、薬物耐性などを研究題材として、これらに関わる遺伝子群のスクリーニング並びに得られた候補遺伝子の機能解明を行う。各自が個別の研究テーマを設定した上で、研究計画の策定、実施、実験結果の解釈、とりまとめなどを通じて、基本的な研究遂行能力を修得する。
弘瀬 雅教 教授 (分子細胞薬理学分野)	心臓不整脈発生メカニズム解明のための基礎研究を行うことにより、循環器疾患の成因や病態について学び、新たな治療法を開発するためのトランスレーショナルリサーチの基礎を身につける。
佐塚 泰之 教授 (創剤学分野)	新規医薬品の開発や既存医薬品の臨床的価値の増大のため、創剤科学において学習した知識を活用し研究を行うとともに、その技術を身につける。
小澤 正吾 教授 (薬物代謝動態学分野)	薬物動態学の分野の知見は、医薬品の有効性と安全性の確保に必要不可欠である。特に薬物動態の個人差に関して、未だに未解明の機構がある。本科目では、医薬品の有効性と安全性の個人差に関わる遺伝子配列に基づく個人差、遺伝子配列に規定されることなく現れる個人差についてその機構を明らかにする実験的研究を行う。医療薬学分野における医薬品の有効性と安全性の確保に役立つ基礎的実験手法を体得する。
那谷 耕司 教授 (臨床医化学分野)	未だ不明な点が多い糖尿病の病態の解明について研究を行う。具体的にはヘパラン硫酸とインスリン産生β細胞の機能、増殖との関連を解析する。この研究を通して、医療系分野における研究者として必要な基本的な実験手技を身につけるとともに、実験結果の解析やまとめ、プレゼンテーションについての能力の習得を目指す。
工藤 賢三 教授 (臨床薬剤学分野)	臨床の現場での解決すべき問題点等に着眼しながら研究テーマを設定し、研究計画の策定、実施、実験結果の解析・評価、取りまとめやプレゼンテーションを通じて、基礎研究能力の習得、ファーマシー・サイエンティスト実践を目指す。
田村 理 准教授 (創薬有機化学分野)	生物活性物質の有機化学的合成を通じて、医薬シーズの開発を行う。種々の反応を駆使した合成計画を立てた上で、全合成に必要なスキルを習得しながら生物活性物質および類縁体の合成を行い、構造活性相関の検討を経て、より有用な類縁体をデザインし医薬品シーズの開発へと繋げる。これら一連の知識、技術、考え方を学び、結果を論文へまとめる能力を養う。
朝賀 純一 准教授 (臨床薬剤学分野)	臨床の現場で遭遇する疑問や症例を通じて研究テーマを設定し、研究計画の策定、実施、実験結果の解析・評価、取りまとめやプレゼンテーションを行う。これらを通じて基礎研究能力の習得、ファーマシー・サイエンティスト実践を目指す。